

校長室だより



令和4年1月18日
校長 齋藤 瑞穂

「防災とボランティアの日」

～1995年1月17日は

阪神淡路大震災が起きた日です～

27年前、1995年1月17日5時46分、兵庫県淡路島沖を震源として、マグニチュード7.3の地震が発生しました。

その日の朝、何気なくつけたテレビの画面には、ヘリコプターから撮影された神戸の街の無残な様子が映し出されていました。高速道路の柱が折れ倒れたり、大きなビルが倒れ道路をふさいだり、無数の火の手が上がっていたり、道路が大きく割れてその間に車が落ち込んでいたり…。これは現実に起こっていることなのか、何かのまちがいではないか、そんな思いで画面にくぎ付けになったことを思い出します。

のちに阪神淡路大震災と呼ばれる大地震が起こった日でした。

この災害では、6400人以上がなくなりました。その多くが、圧死と言って、くずれた建物や倒れた家具に押しつぶされたことが原因でした。この地震をきっかけに、建物の安全基準が大きく見直されました。新たに建てられる建築物だけでなく、古い建物には耐震補強工事が施されましたし、みなさんの家でも、家具が倒れないような工夫をしているでしょう。

また、この大災害では多くのボランティアが活躍しました。ボランティアとは、自分からすんで、多くの人の役に立つ働きをすることです。大災害が起きた時、例えば、いろいろなところか



ら集まった救援物資を仕分けし、必要としている人へ届けたり、道路上に残った災害ごみを片づけたりといったことは、警察や消防、役所の人だけでは、とても間に合いません。阪神淡路大震災では、このようなことがボランティアの人たちの働きによって大いに助けられ、これをきっかけにしてボランティアということも一般的になりました。

これらのことから、阪神淡路大震災の翌年、政府は1月17日を「防災とボランティアの日」と定めたのでした。

こここのところ、少し大きめな地震が日本各地で続いていますし、日曜日にはトンガ海底噴火による津波の警報が発令されましたね。日本はいつ、どこで大きな地震が起きるかわからない地震大国です。また、ここ数年は異常気象による風水害も規模が大きくなっています。「防災とボランティアの日」にちなみ、災害に備え何をしておいたらよいか、災害が起きた時どうするか、また、自分がみんなのために何ができるか、考えてみましょう。

クイズ

なんと読むでしょう？

○○

雉

きびしい寒さが続いている。七十二候によれば、今は「雉始雊」。春へ向かうこの時期、オスがメスへの求愛のため、「ケーン、ケーン」と特徴的な高い声を上げて鳴くのだと。さて、この鳥は？

保護者の皆様

17日は、予告なしで地震想定の避難訓練を行いました。給食前の時間でしたが、子供たちは素早く机の下にもぐり、静かに校庭に避難しました。日ごろの訓練の成果です。しかし、天災は学校にいる時に起きるとは限りません。今一度、ご家庭でも発災時の命の守り方についてお子さんと話し合ってみてください。